

感情形容詞の使役表現

権裕羅

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

kur1106@naver.com

1. はじめに

感情形容詞の使役は、「悲しくさせる」、「楽しくさせる」のように「感情形容詞の連用形+させる」の形で表すことができる。しかし、大曾（2001）の指摘のように、「感情形容詞の連用形+させる」がいつも使えるわけではない。感情形容詞の中には、接尾辞「-む」で終わる動詞を持つのがあり、文によっては「感情形容詞の連用形+させる」の代わりに「感情を表す動詞の使役形」が使われる場合がある。例(1)は「感情形容詞の連用形+させる」と「感情を表す動詞の使役形」が置換できる場合であり、例(2)、(3)は両者が置換できない場合である。

- (1) a. 人を元気にする言葉もあれば、その反対に人を悲しくさせてしまう言葉もある。¹⁾
b. 人を元気にする言葉もあれば、その反対に人を悲しませてしまう言葉もある。
- (2) a. ??今日一日、お年寄りを楽しくさせてあげてください。
b. 今日一日、お年寄りを楽しませてあげてください。²⁾
- (3) a. 酒は今夜も私を悲しくさせる。³⁾
b. ??酒は今夜も私を悲しませる。

「感情形容詞の連用形+させる」と「感情を表す動詞の使役形」は、例(2)、(3)のように置換できない場合があり、両者は文脈による使い分けがあると考えられる。

しかし、両者の形式の使い分けの基準を詳しく記述した先行研究は見当たらない。そこで、本研究では「感情形容詞の連用形+させる」と「感情を表す動詞の使役形」の使用条件を明らかにしたいと考える。

2. 先行研究

1) 楊（1986）は、「サビシイ」「カナシイ」「クルシイ」「イタイ」「ネムイ」のように人間の主観的な感情、感覚を表す形容詞の使役文の場合は、「XガYヲZニスル」「XガYヲZニサセル」構文を用いると不自然な文になるとし、例(4)、(5)をあげている。感情、感覚形容詞の使役文を作る場合は形容詞に意味的に対応する動詞を用いるのが普通であると記述している。

- (4) ?? a. 友人ノ死ガ太郎ヲ悲シクシタ。
 ?? b. 友人ノ死ガ太郎ヲ悲シクサセタ。
 c. 友人ノ死ガ太郎ヲ悲シマセタ。
- (5) ?? a. 一時間ノショウガスッカリ ミンナヲ楽シクシタ。
 ?? b. 一時間ノショウガスッカリ ミンナヲ楽シクサセタ。
 c. 一時間ノショウガスッカリ ミンナヲ楽シマセタ。

一方、定延（1991）、大曾（2001）、頼（2008）は「感情形容詞の連用形＋させる」の例文を挙げていて、頼（2008）は「感情形容詞の連用形＋する」の例文を挙げている。

2) 定延（1991）の例

- (6) 太郎が心ない一言で、みんなをつまらなくさせた。
 (7) = (3) 酒は今夜も私を悲しくさせるの。
 (8) みんなを楽しくさせるスタンダード・ジャズの格好の例だ。

3) 大曾（2001）は、事物の一般的属性を規定する形容詞の使役的意味（人がある状態を引き起こす）は、例（9）、（10）のように「形容詞の連用形＋する」で表すが、感情形容詞の場合は例（11）、（12）、（13）のように「形容詞の連用形＋する」で表すことができないと記している。

- (9) 私は部屋を暗くした。
 (10) スカートを短くしてください。
 (11) *太郎の留学は母親を寂しくした。
 (12) ?? 音楽は人を楽しくする。
 (13) *彼の突然の死は仲間を悲しくした。⁴⁾

大曾（2001）は、感情形容詞の使役文を作るとき「する」ではなく「させる」が使われる場合があるとし、その背景について寺村（1982）⁵⁾を参照に、「「する」がある「状態の生起」を表すのに対し、「させる」は「動的事象の生起」を表す。「させる」の使用は日本語が感情を「動的事象」と捉えていることを示すと言ってもいいだろう。」と記述している。

4) 頼（2008）は、感情形容詞の使役形として「(形容詞) くさせる」形だけではなくて、「(形容詞) くする」形も提示し、その誘因を記している。

「(形容詞) くさせる」は、例(14)、(15)のように、誰かあるいは何かが誘因になって、ある人物を何かの感情状態にさせる表現であると記述している。一方、「(形容詞) くする」は、例(16)、(17)のように、多くの場合事柄が誘因になって誰かのある感情状態にならせる表現であると記述している。

(14) あの家出の日に、あれほど自分を淋しくさせた男なのに、それでも自分は拒否できず、幽かに笑って迎えるのでした。(太宰治『人間失格』)

(15) 大戸の取材に来たということを、森田が思いのほか喜んでいるらしいことが、私を心苦しくさせた。(沢木耕太郎『一瞬の夏』)

(16) 午後になって、日が何時もの角度に傾くと、この考えは堯を悲しくした。
(梶井基次郎『檸檬』)

(17) 旧友との再会は、かえって源氏の心をさびしくした。(田辺聖子『新源氏物語』)

しかし、「(形容詞) くさせる」と「(形容詞) くする」の誘因として挙げられた人、何か、事柄はその違いが明確に記述されていないと考える。そして、「(感情形容詞) くする」は、楊(1986)と大曾(2001)で使われないと指摘されているため確認する必要があると考えられる。

3. 研究内容

1) 「Nが人を(感情形容詞) くさせる」構文と「Nが人を(感情動詞) せる」構文で、Nに何が来るかコーパスを用いて調査する。コーパスで収集したNを分類し、「感情形容詞の連用形+させる」と「感情を表す動詞の使役形」の使用の違いを明らかにする。

4. これからの課題&考察

1) 日本語では感情を表す語の使役表現に、例(18)、(19)のように「感情形容詞+「がる」の使役形」の形もある。「感情形容詞の連用形+させる」と「感情を表す動詞の使役形」だけではなく、「感情形容詞+「がる」の使役形」が使われる条件も考察する。

(18) 太郎の留学は母親を寂しがらせた。

(19) お母さんを悲しがらせないで。⁶⁾

2) 一般的には「感情形容詞の連用形+する」(ex. 悲しくする)は使えないといわれるが、小説や歌詞で使われる例もある。「感情形容詞の連用形+する」が使われる条件も考察する。

- (20) = (17) 旧友との再会は、かえって源氏の心をさびしくした。(田辺聖子『新源氏物語』)
(21) 薄暗い冷たい廊下を歩くと冷たい床が足下から悲しくする。(aiko『明日のうた』)⁷⁾

注

- 1) 例(1) a は http://cmsweb2.torikyo.ed.jp/minokaya-e/?action=common_download_main&upload_id=2629 から持ってきた例文である。
- 2) 例(2)は大會(2001)の例文である。
- 3) 例(3) a は『悲しい酒』(作詞:石本美由起)の歌詞である。
- 4) 例(9)~(13)の下線は筆者が引いたものである。
- 5) 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味 I』くろしお出版。
- 6) 例(18)、(19)は大會(2001)の例文である。
- 7) 例(20)は頼(2008)からの例文であり、例(21)はaikoが作詞した曲『明日のうた』の歌詞である。

参考文献

- 大會美恵子(2001)「感情を表す動詞・形容詞に関する一考察」,『言語文化論集』22-2, p. 21-30, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科。
- 定延利之(1991)「SASE と間接性」,仁田義雄編『日本語のヴォイスと他動性』, pp. 123-147, くろしお出版。
- 頼錦雀(2008)「日本語感情形容詞の使役表現についての一考察—中国語との対照分析—」,『台湾日本語文学報』23, pp. 43-64, 台湾日本語文学会。
- 楊凱榮(1986)「「XガYヲZニスル」構文と「XガYヲZニサセル」構文との異同について: Zが形容詞の場合」,『言語学論叢』5, pp. 17-30, 筑波大学一般応用言語学研究室。